

# 平成24年の全数把握対象疾患

平成24年の全数把握対象疾患の届出状況は、表1のようになっている。

## 1. 一類感染症

届出はなかった。

## 2. 二類感染症

結核が425例の届出があった。

その類型は、患者278例、無症状病原体保有者134例、疑似症患者12例及び感染死亡者の死体1例であった。全届出例の年齢階層は、10歳未満15例、10歳代7例、20歳代43例、30歳代42例、40歳代29例、50歳代37例、60歳代49例、70歳代75例、80歳代107例、90歳代21例で、80歳代が最も多く、70歳以上で全体の47.8%であった。別添で概要を述べる。

## 3. 三類感染症

細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症17例の届出があった。

細菌性赤痢5例の菌型は全てが *S.sonnei* で、うち2例は、推定感染地域がマダガスカル、インドであった。

腸管出血性大腸菌感染症17例の類型は、患者12例、無症状病原体保有者が5例で、その年齢階層は、10歳未満が7例、10歳代が2例、20歳代3例、30歳代3例、40歳代1例及び60歳代1例であった。血清型は、O157が12例、O26が4例、不明が1例であった。平成24年度には、生レバーの喫食が禁止されたほか、生食用食肉についても規格基準等が設定されたことから、腸管出血性大腸菌感染症の届出については、前年までに比べると減少傾向となった。別添で概要を述べる。

## 4. 四類感染症

ツツガムシ病1例、デング熱5例、マラリア1例、レジオネラ8例の届出があった。

ツツガムシ病1例は、和歌山県田辺市で感染したものと推定されている。

デング熱は全てデング熱型で、1月に1例、他の4例は、9、10月に届出があったものである。1月の事例は、年末年始にバンコク・パタヤへ渡航した40代男性、9、10月に届出があったものは、8、9月にフィリピン、カンボジア、インド等に渡航した17～21歳の男女であった。血清型が判明したのは、フィリピンに渡航した17歳男性が1型、カンボジアに渡航した20歳男性が3型である。

マラリア1例は、熱帯熱型で、血液検体の鏡検による病原体を検出しており、カメルーンでの感染と確定されている。

レジオネラ8例は、全てが肺炎型で、その年齢階層は、50歳代2例、60歳代3例、70歳代2例及び80歳代1例となっている。全例に発熱があり、肺炎及び呼吸困難が7例、咳嗽及び意識障害が4例、腹痛・下痢・多臓器不全・その他がそれぞれ1例に認められた。感染原因は、水系感染が3例、塵埃感染が2例及びその他が3例となっている。

## 5. 五類感染症

アメーバ赤痢 6 例, ウイルス性肝炎 1 例, クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例, 後天性免疫不全症候群 11 例, 髄膜炎菌性髄膜炎 1 例, 梅毒 6 例, 風しん 18 例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は, 腸管アメーバ症 4 例, 腸管外アメーバ症 2 例であった。全て男性で, 年齢階層は, 40 歳代及び 50 歳代がそれぞれ 2 名, 60 歳代及び 70 歳代がそれぞれ 1 名であった。感染原因は, 経口感染が 2 名, 性的接触 3 名, 不明 1 例であった。

ウイルス性肝炎 1 例は, 70 歳代男性で C 型, 感染原因は不明であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例は, 全て古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)で, 69 歳代及び 70 歳代の女性と 80 歳代の男性であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例は, 80 歳代男性, 血清群は A 群であった。

後天性免疫不全症候群 11 例の病型は, AIDS 4 例, 無症候性キャリア 6 例, その他 (HIV 感染症) 1 例であった。性別, 年齢階層は, 男性が 20 歳代及び 30 歳代がそれぞれ 2 名, 40 歳代 1 名, 50 歳代 4 例, 60 歳代 1 例, 女性が 40 歳代 1 名であった。感染原因・感染経路は, 異性間性的接触 6 例, 同性間性的接触 5 例であった。別添で概要を述べる。

髄膜炎菌性髄膜炎 1 例は 19 歳女性であるが, 詳細は記載がない。

梅毒 6 例の病型は早期顕症梅毒 2 例 (I 期 1 例, II 期 1 例) 晩期顕症梅毒 1 例, 無症候 3 例であった。性別, 年齢階層は, 男性が 20 歳代, 40 歳代及び 50 歳代それぞれ 1 名, 女性が 60 歳代, 70 歳代及び 80 歳代それぞれ 1 名, 男性の感染原因は全て性的接触で, 女性では, 約 30 年前の輸血と推定された例及び不明 2 例であった。

風しんは 18 例と前年に比べて増加した。平成 24 年の春先に神戸市, 大阪府で流行し, その後首都圏でも流行し, 奈良県でも 5 月から届出が増加, 9 月には終息した。届出数は 5 月 3 例, 6 月 4 例, 7 月 5 例, 8 月 2 例及び 9 月 4 例で, 病型は, 検査診断例 11 例, 臨床診断例 7 例であり, 性別, 年齢階層は女性 9 例 (10 歳未満 2 例, 10 歳代 3 例, 20 歳代 2 例, 30 歳代及び 50 歳代それぞれ 1 例), 男性 9 例 (10 歳代 2 例, 20 歳代 4 例, 30 歳代, 40 歳代及び 50 歳代それぞれ 1 例), ワクチン接種歴については, 接種歴有り 4 例 (男性 2 例, 女性 2 例), 接種歴無し 7 例 (男性 5 例, 女性 2 例), 不明 7 例 (女性 5 例, 男性 2 例) であり, 特に女性で 10 歳前後の 2 例以外が, ワクチン接種歴が無し若しくは不明とされているのが気にかかる (図)。また, 男性では, 近府県の職場やアルバイト先で同じ症状の人が複数いるとしている事例もあり, 今後近府県での流行状況には, 注意が必要である。なお, 平成 25 年 6 月現在, 先天性風しん症候群が全国で 11 例報告されており, さらに風しんは平成 24 年を大きく超えて大流行している。今後, 本県での先天性風しん症候群の発生を防止するため, 更なる注意喚起が必要と考える。

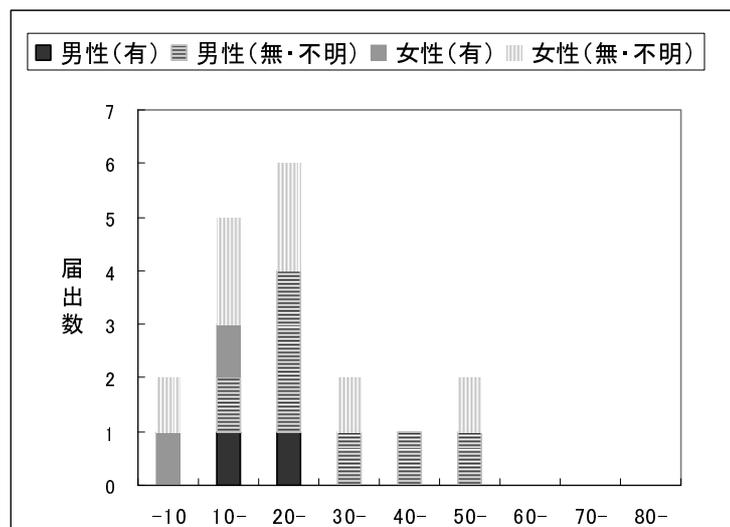


図 風しんの年齢別届出数とワクチン接種状況

麻しんは、届出がなかった。これは、平成 23 年度から始まった麻しん対策推進事業で、遺伝子検査による検査診断が徹底されたためと思われる。

表1 全数把握対象疾患報告状況

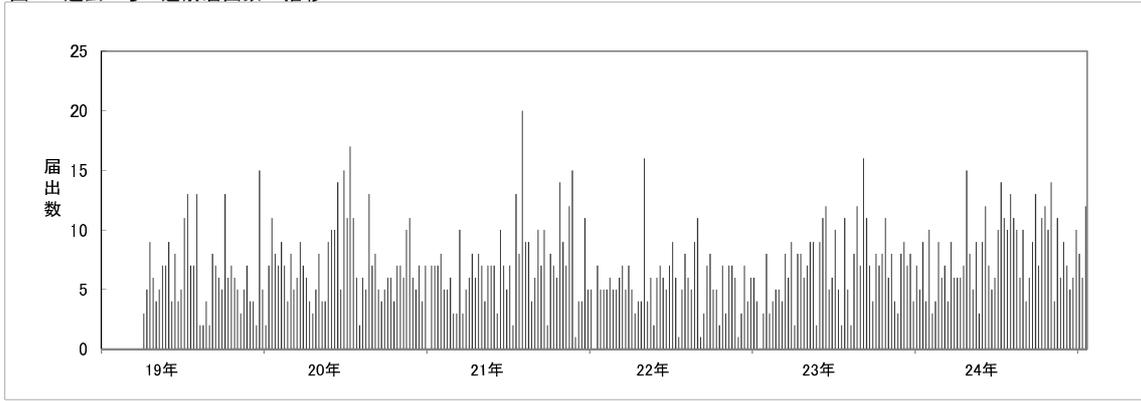
	調査年	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成24年 (全国)
一類	疾患名						
	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	痘そう						
	南米出血熱						
	ベスト						
二類	マールブルグ病						
	ラッサ熱						
	急性灰白髄炎						
	結核	372	371	287	361	425	28,951
	ジフテリア						
三類	重症急性呼吸器症候群						
	鳥インフルエンザ(H5N1)						
	コレラ						3
	細菌性赤痢		2	2		5	214
	腸管出血性大腸菌感染症	38	50	53	24	17	3,765
四類	腸チフス	1		1			36
	パラチフス						24
	E型肝炎						119
	ウエストナイル熱						
	A型肝炎	3	1	2			158
	エキノкокクス症						17
	黄熱						
	オウム病		1				8
	オムスク出血熱						
	回帰熱			1			1
	キャサナル森林病						
	Q熱						1
	狂犬病						
	コクシジオイデス症						2
	サル痘						
	腎症候性出血熱						
	西部ウマ脳炎						
	ダニ媒介脳炎						
	炭疽						
	チクングニア熱						10
	つつが虫病			2		1	436
	デング熱			4		5	221
	東部ウマ脳炎						
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)						
ニパウイルス感染症							
日本紅斑熱						170	
日本脳炎						2	
ハンタウイルス肺症候群							
Bウイルス病							
鼻疽							
ブルセラ症							
ベネズエラウマ脳炎							
ヘンドラウイルス感染症							
発しんチフス							
ポツリヌス症						3	
マラリア					1	73	
野兔病							
ライム病						11	
リッサウイルス感染症							
リフトバレー熱							
類鼻疽							
レジオネラ症	5	4	1	9	8	898	
レプトスピラ症			1			30	
ロッキー山紅斑熱							
五類	アメーバ赤痢	11	9	11	11	6	931
	ウイルス性肝炎	3	1	1		1	235
	急性脳炎		1	1			361
	クリプトスポリジウム症						6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2		3	1	3	183
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		4		1	1	243
	後天性免疫不全症候群	4	13	16	12	11	1,427
	ジアルジア症		1		1		72
	髄膜炎菌性髄膜炎					1	15
	先天性風しん症候群						5
	梅毒	1	2	3	6	6	891
	破傷風						117
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1			91
	風しん	2	2		1	18	2,391
	麻しん	12	3	3	2		285
	新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)※		305			

※全数把握対象としたのは、平成21年4月28日～7月27日まで

ゼロ値は表示していない

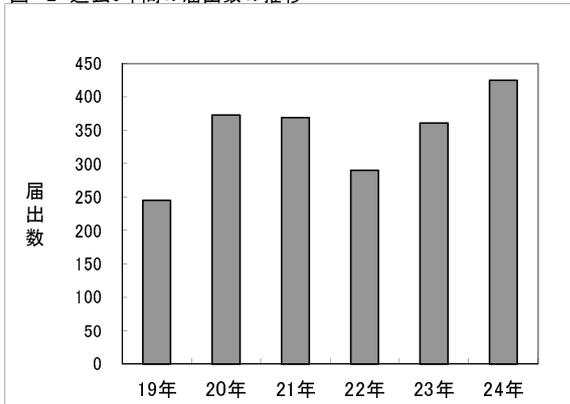
## 結核

図-1 過去からの週別届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図-2 過去6年間の届出数の推移



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図-5 週別届出数

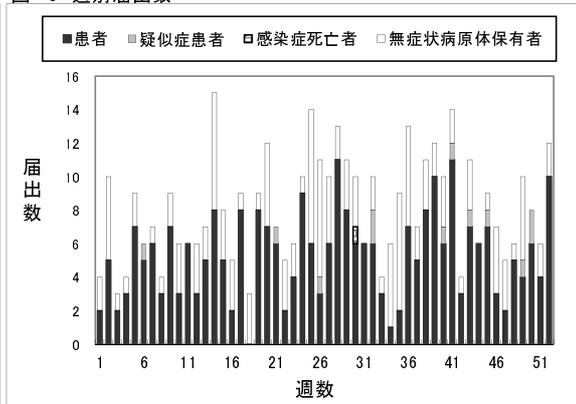


図-3 年齢別届出数

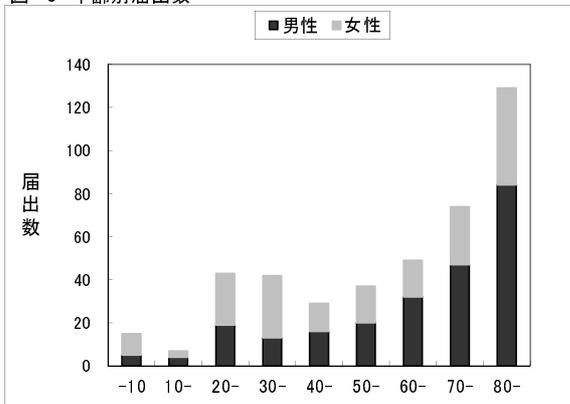


図-6 病型別

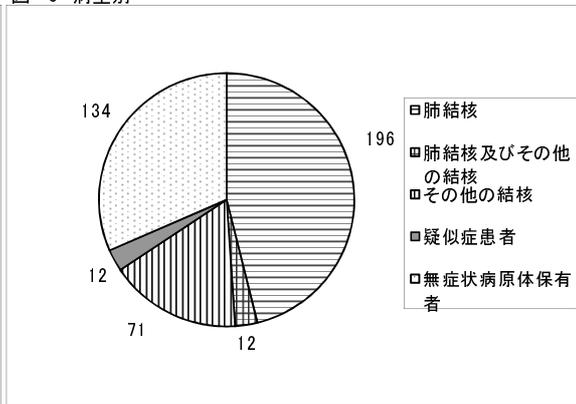
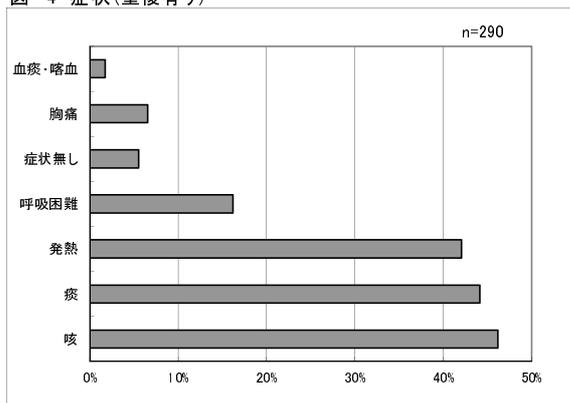


図-4 症状(重複有り)



## その他

### 感染地域(推定含む)

県内: 291例  
国内(県外・不詳): 133例  
海外: 1例

既感染からの発症の可能性を指摘されているもの 40例

20歳代 1例、30歳代 0例、40歳代 1例、  
50歳代 2例、60歳代 4例、70歳代 12例、  
80歳代 16例、90歳代 4例

無症状病原体保有者で喀痰や気管支洗浄液等から病原体が検出されている者が6例、患者で症状無しのもので喀痰や気管支洗浄液等から病原体が検出されている者が14例あった。

# 腸管出血性大腸菌感染症

図-1 過去からの週別届出数の推移

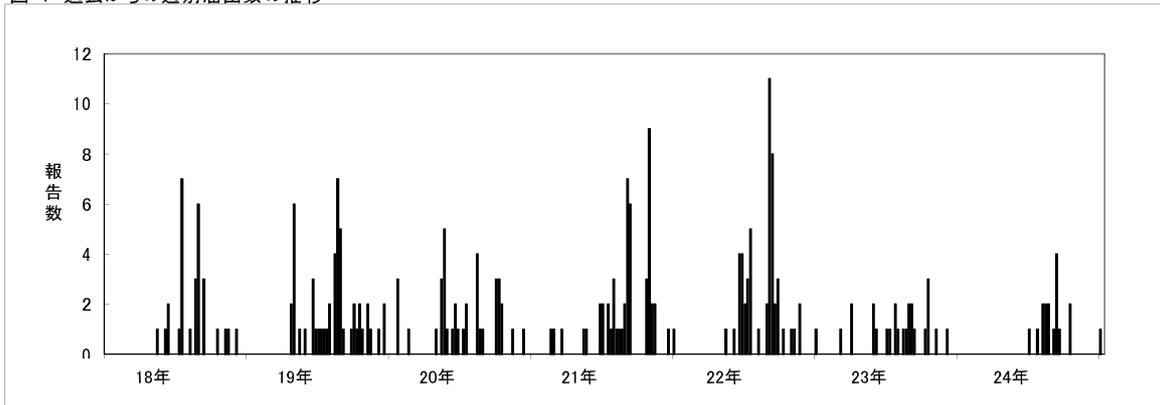


図-2 過去からの届出数の推移

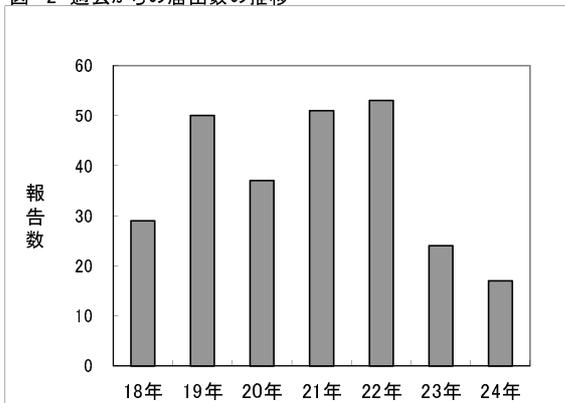


図-5 週別届出数

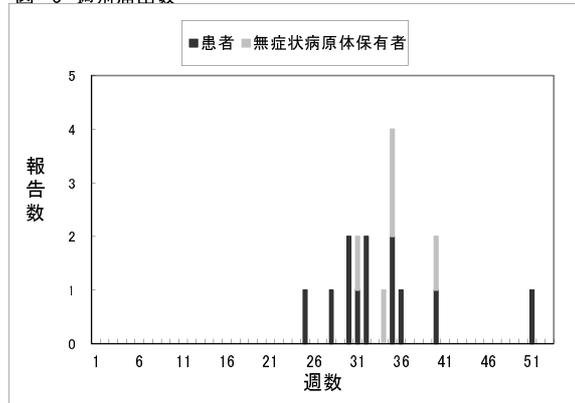


図-3 年齢別届出数

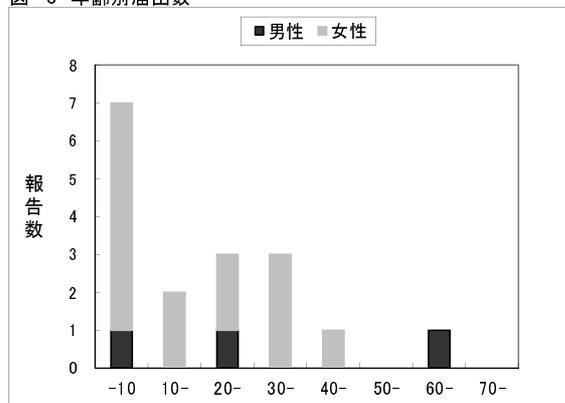


図-6 血清型別患者報告数

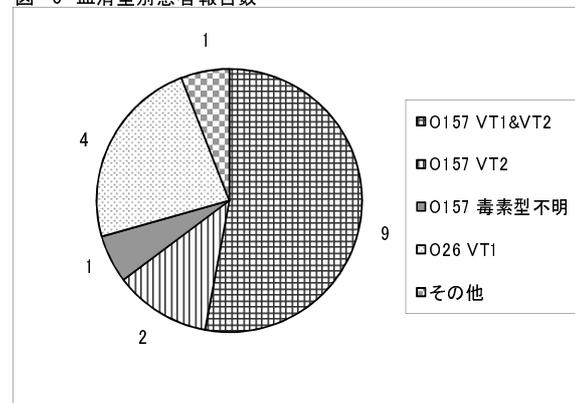
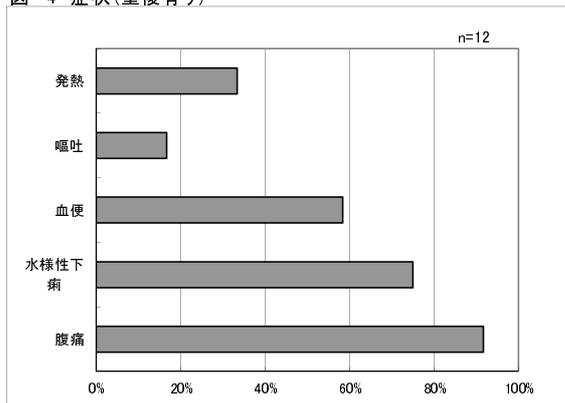


図-4 症状(重複有り)



## その他

### 感染地域(推定を含む)

県内 11例  
 県外 4例  
 不明 2例

### 感染経路(推定含む)

経口感染 9例  
 接触感染 2例  
 その他 8例 (不明、プールなど)

急性腎不全や溶血性尿毒症候群(HUS)を呈する者はいなかった。

# 後天性免疫不全症候群

図-1 過去からの週別報告数の推移

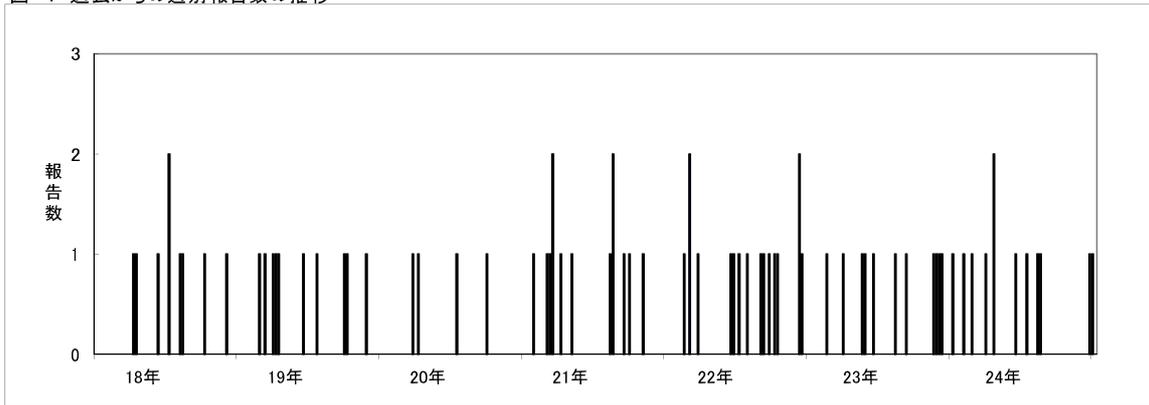


図-2 過去からの届出数の推移

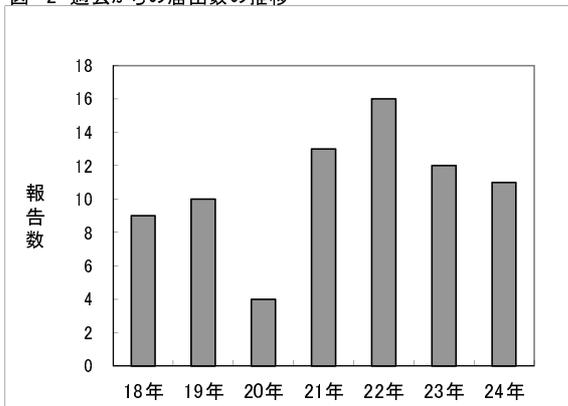


図-5 週別届出数

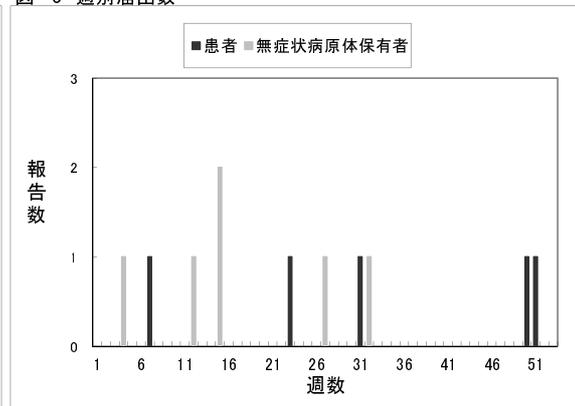


図-3 年齢別届出数

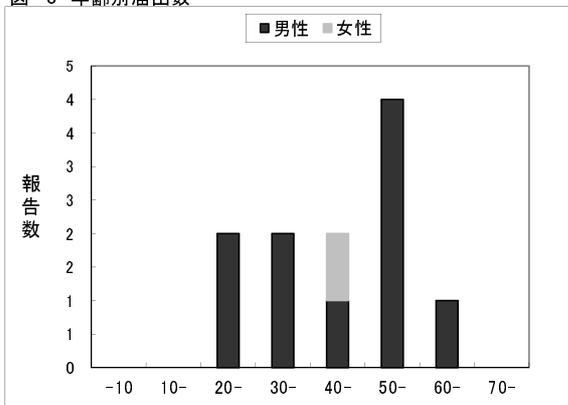


図-6 病型別

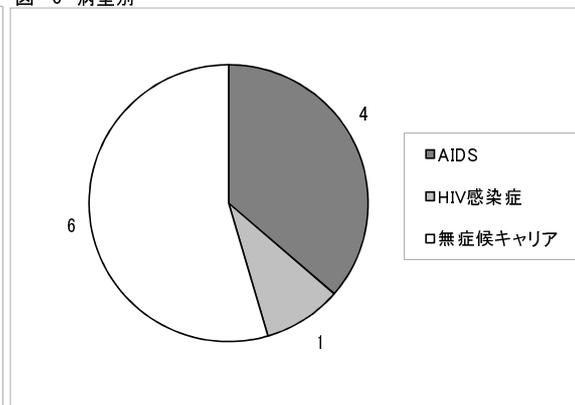
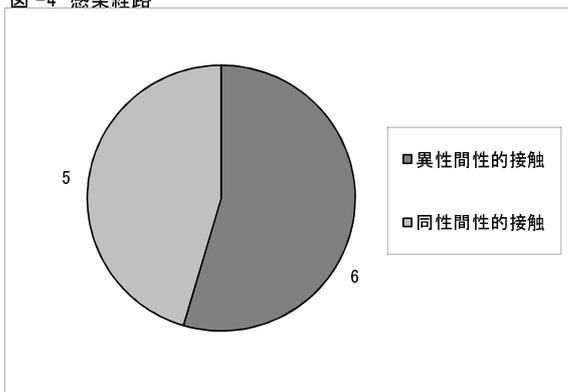


図-4 感染経路



## 概要

### 感染地域(推定含む)

国内 11例  
不明 1例

### 11例全てが、性行為感染

男性 異性間性的接触 5例、同性間性的接触 5例  
女性 異性間性的接触 1例